

渡辺茂教授記念号に寄せて

渡辺茂教授は2003年4月、本大学経済学部会計ファイナンス学科教授に着任され、2009年4月から2011年3月まで会計ファイナンス学科長を歴任され、2018年3月に退職されるまで、15年間の長きにわたり、本学ならびに経済学部の教育・研究の改善と発展にご尽力いただきました。衷心より感謝申し上げます。

渡辺先生は東京大学教育学部をご卒業後、日本放送協会（NHK）に入局され、放送記者としてご活躍の後、総理府（当時）に入省、通商産業省（当時）への出向を経て、ハーバード大学ビジネススクールにご留学されています。ハーバード大学ビジネススクールでMaster of Business Administration（MBA）を取得された後、野村総合研究所に入社されています。その後、スタンフォード大学フーバー研究所客員フェローも務められ、野村総合研究所企業経営研究室長を最後に本学にご着任くださいました。その間、大蔵省（当時）企業会計審議会、通商産業省（当時）産業構造審議会、金融庁企業会計審議会、同金融審議会の各委員等の要職にも就き、わが国の経済、とりわけ金融分野で多大なる貢献をされました。特に企業会計審議会では長きにわたって企業会計基準等の設定において中心的な役割を果たされ、一般に会計ビッグバンと呼ばれる改革において活躍されました。また公認会計士試験の試験委員もつとめられました。

この間、多数の論文をご執筆された一方で、1994年にご高著『ROE [株主資本利益率] 革命』（東洋経済新報社）を皮切りに、共著（『資本市場とコーポレート・ファイナンス』）、編著（『ケースと図解で学ぶ企業価値評価』）を出版されました。本学にご着任後は、一般のビジネスパーソンに向けて、2005年に日経文庫から『企業価値評価の基本』を著され、また、2008年には、学部の講義等でも大変評判の良いテキスト『しっかりわかるファイナンス』を出版されています。

教育面では、本学着任時から「コーポレート・ファイナンス」という会計ファイナンス学科の重要な科目をご担当され、また、ゼミナールは、いわゆる人気ゼミとなり、常に多くの学生を惹きつけ、厳しくかつあたたかく導いてくださいました。コーポレート・ファイナンスでは、株式や債券の価格設定、企業の投資判断、さらには投資家行動など様々な興味深い問題を扱い、基礎的な知識から学生を教え諭し、さらにはご自身の実務経験を踏まえて、応用までしっかり理解させるといふ、渡辺先生ならではの授業を展開されました。この授業は当然のように人気

科目となり、延べ数千人の学生が先生の薫陶を受けるに至っています。

ゼミの学生たちと談笑しながら立教通りを歩く渡辺先生をお見かけすることが多く、本当に学生たちから慕われている先生でした。ファイナンスという学生からは少し遠い世界の難しい領域について、分かりやすく学生に伝える教育手法は誰も真似のできない域に達していました。渡辺先生のご見識の広さと深さに常に圧倒されるという話をゼミの学生から聞いております。

修士論文の報告会でも大学院生の拙い報告に対して、必ずしも先生のご専門ではなくとも、実務の視点や論理的な矛盾を優しく諭すように、そして、鋭くご指摘されていたことが思い出されます。

お世話になった渡辺先生のご退職は大変残念ではありますが、長きにわたる本学へのご貢献に感謝し、渡辺先生のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしまして、ここに先生の記念号を刊行させていただきます。

2018年9月

経済学部長 菅沼 隆